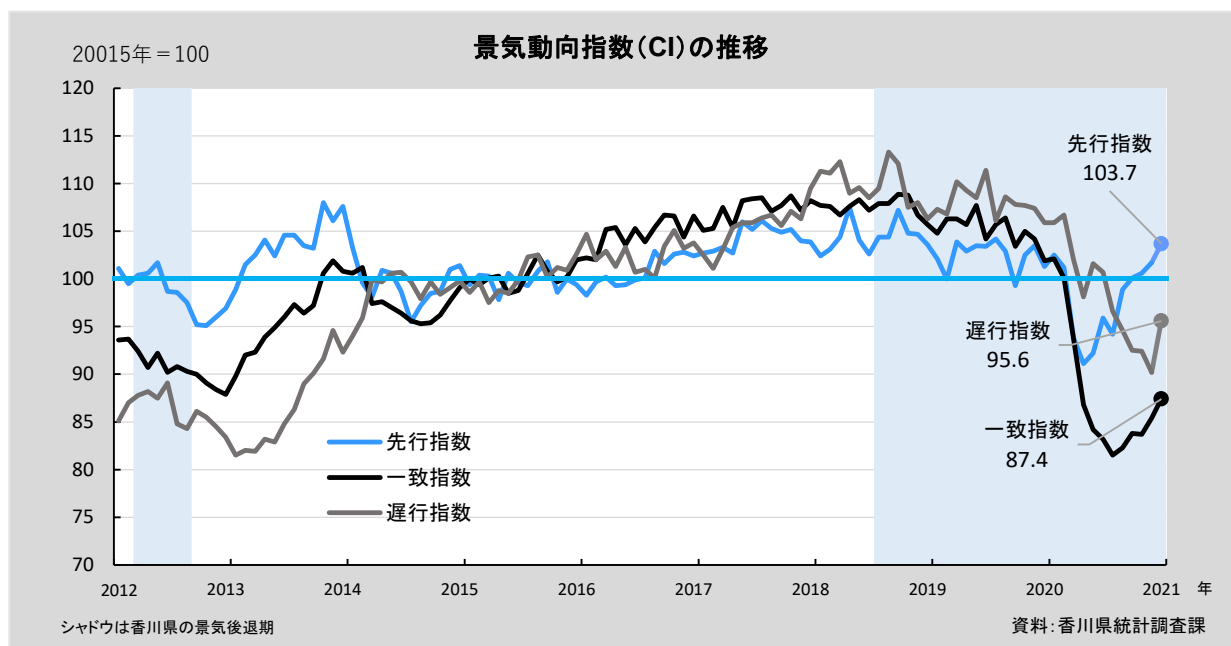


<b>概況</b>	景気は持ち直しつつあるが、感染再拡大の影響で足踏みがみられる。
<b>個人消費</b>	一部弱さがみられるが、持ち直しの動きが続いている。
<b>住宅投資</b>	横ばい圏内の動きとなっている。
<b>公共投資</b>	高水準で推移している。
<b>生産活動</b>	持ち直しの動きがみられる。
<b>雇用情勢</b>	求人減により弱い動きとなっている。
<b>貿易</b>	輸出、輸入ともに弱い動きとなっている。
<b>観光</b>	弱い動きとなっている。

**景気動向指数(かがわ CI) 一致指数 2カ月連続上昇**



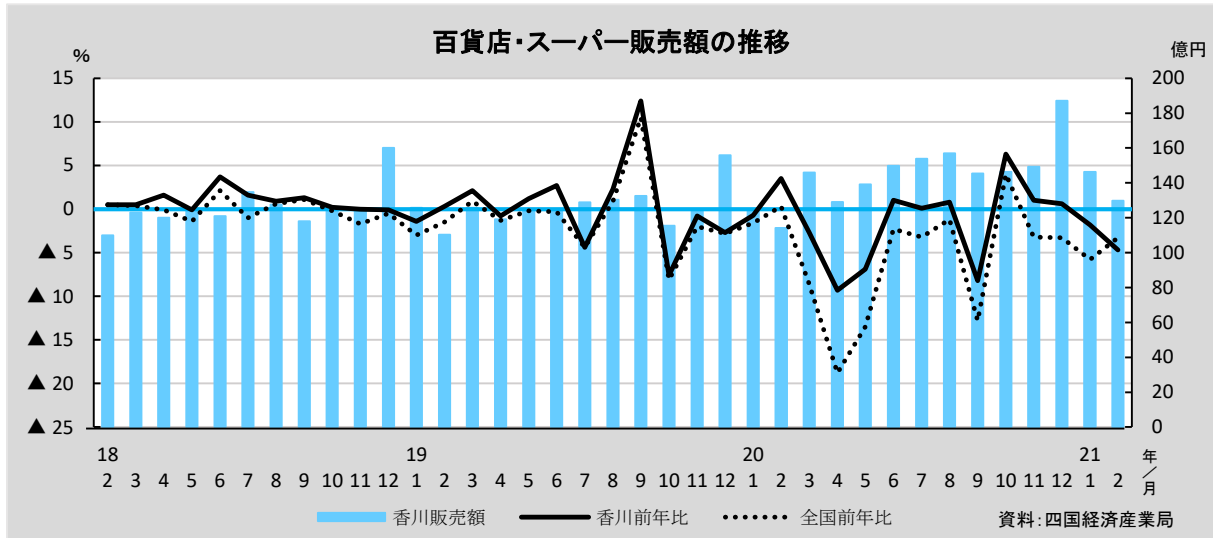
景気の現状をみると、1月のCI一致指数は87.4（前月比+2.0ポイント）と2カ月連続で上昇。CI先行指数は103.7（同+2.0ポイント）と5カ月連続で上昇。CI遅行指数は95.6（+5.4ポイント）と7カ月ぶりに上昇。

景気の現況を示す一致系列の個別指標では、有効求人倍率、所定外労働時間指数、建築着工床面積等が上昇に寄与したことにより、前月から2.0ポイント上昇。

先行系列		寄与度	一致系列		寄与度	遅行系列		寄与度
採用 景気 指標	1 新規求人数	0.85	1 雇用保険受給者実人員	▲ 0.36	1 常用雇用指数	1.74		
	2 乗用車新車登録台数	▲ 0.82	2 有効求人倍率	1.39	2 有効求職者数	1.24		
	3 鉱工業在庫率指数	▲ 0.63	3 所定外労働時間指数	1.06	3 消費者物価指数	1.27		
	4 生産財生産指数	1.60	4 鉱工業生産指数	0.25	4 家計消費支出	0.07		
	5 新設住宅着工戸数	0.62	5 鉱工業出荷指数	▲ 0.01	5 鉱工業在庫指数	1.10		
	6 金融機関貸出残高	0.81	6 建築着工床面積	0.37	6 法人事業税調定額	▲ 0.08		
	7 消費者態度指数	▲ 0.27	7 百貨店・スーパー 既存店販売額	▲ 0.77	7 第3次産業活動指数	0.20		

●百貨店・スーパー販売額

2カ月連続減少 ↓



2021/2月	衣料品	身の回り品	飲食料品	家具	家庭用 電気機械器具	家庭用品	その他の商品	食堂・喫茶	合計
販売額(万円)	80,257	46,848	961,384	1,359	6,631	83,249	118,159	537	1,298,424
前年同月比(%)	▲18.9	▲7.7	▲4.9	12.5	▲10.7	11.9	▲4.0	▲36.1	▲4.7

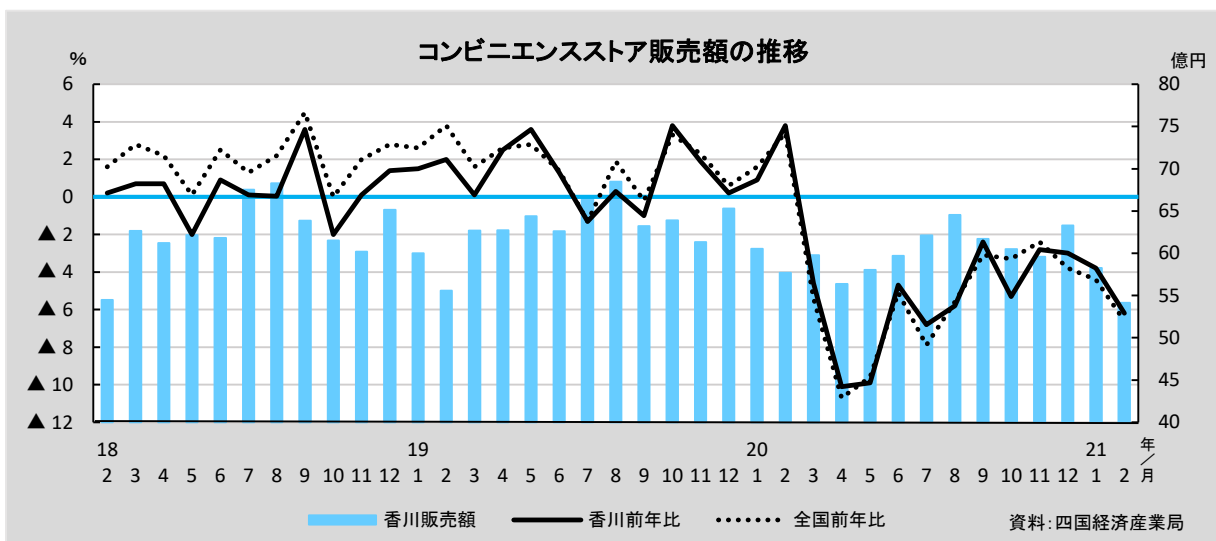
2月の百貨店・スーパー全店（84店）の販売額は129.8億円で前年同月比▲4.7%となった。飲食料品・衣料品が前年を下回り2カ月連続で減少した。

品目別にみると、前年の新型コロナ感染拡大によるまとめ買いの反動減で「飲食料品」は同▲4.9%、外出自粛傾向が続き「衣料品」は同▲18.9%と減少した。

一方、「家庭用品」は内食需要が好調で、台所用消耗品が堅調に推移したことにより同+11.9%となった。

●コンビニエンスストア販売額

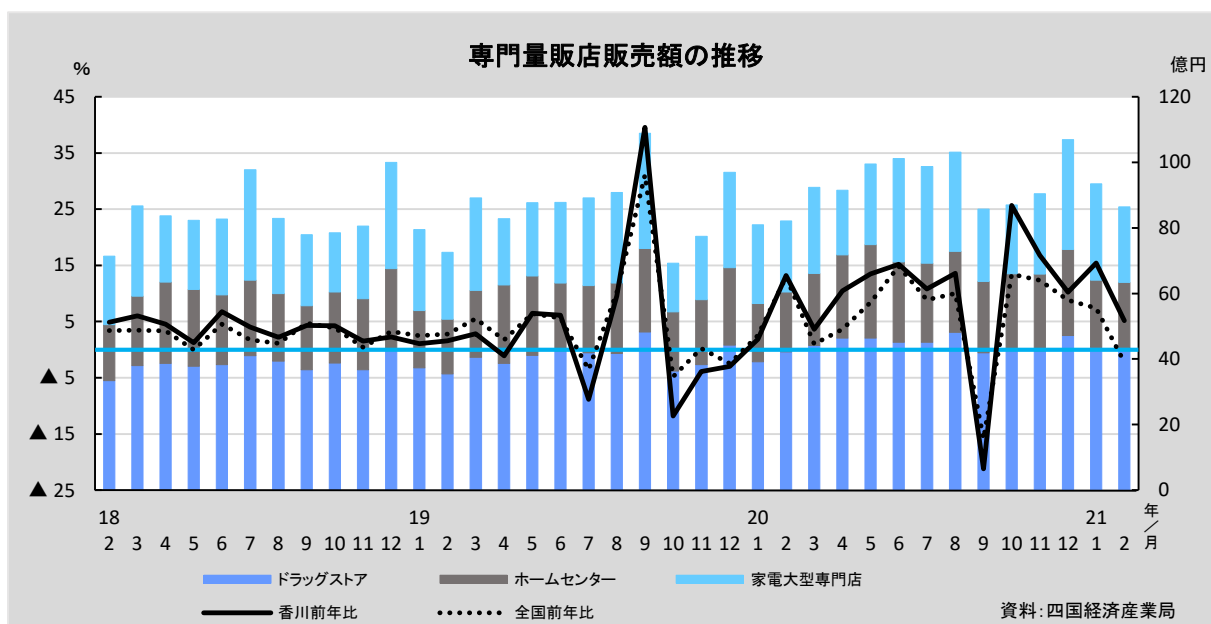
12カ月連続減少 ↓



2月のコンビニエンスストア全店（408店）の販売額は54.2億円で、前年同月比▲6.2%となった。外出自粛による来店客数の減少で、ファストフードやおにぎりの動きが鈍く、前年に需要が急増したマスクなどの衛生用品の反動減で12カ月連続の減少となった。

● 専門量販店販売額

5 カ月連続増加

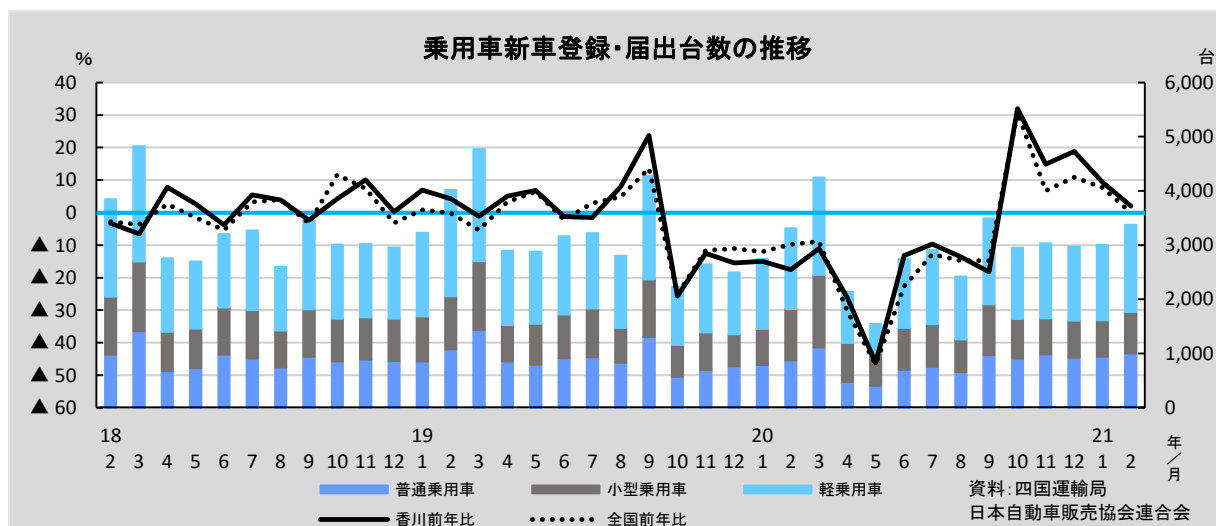


2月の専門量販店全店（200店）の販売額は86.4億円で、前年同月比+5.2%と5カ月連続で増加した。

業態別にみると、AV家電・携帯電話などが堅調に推移し家電大型専門店（29店）の販売額は、23.0億円で前年同月比+6.0%となった。ドラッグストア（128店）の販売額は、衛生用品などの需要が急増した前年の反動減があったものの堅調に推移し、43.4億円で同+2.9%。ホームセンター（43店）も同様に反動減がみられたがDIY用具・園芸用品などが堅調で、販売額は20.0億円で同+9.7%となった。

● 乗用車新車販売台数

5 カ月連続増加



2月の乗用車（普通・小型・軽）新車販売台数は3,377台で、前年同月比+2.0%と5カ月連続で増加となった。

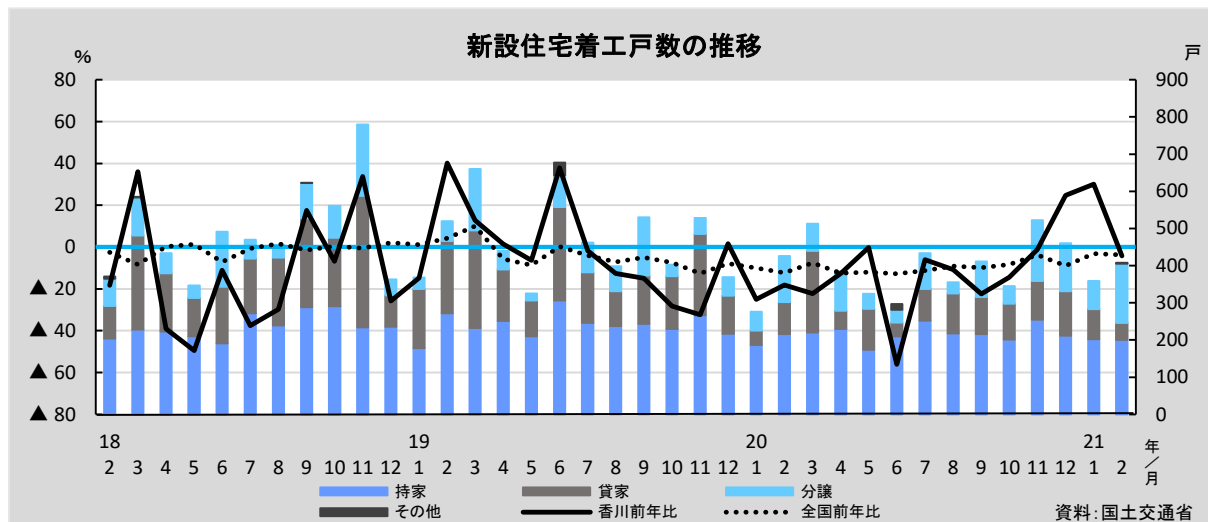
車種別にみると、普通乗用車で前年同月比+15.2%、軽乗用車で同+8.0%と増加した。小型乗用車は、世界的な半導体不足による減産の影響で同▲19.5%となった。

## 住宅投資

横ばい圏内の動きとなっている

### ●新設住宅着工

3カ月ぶり減少



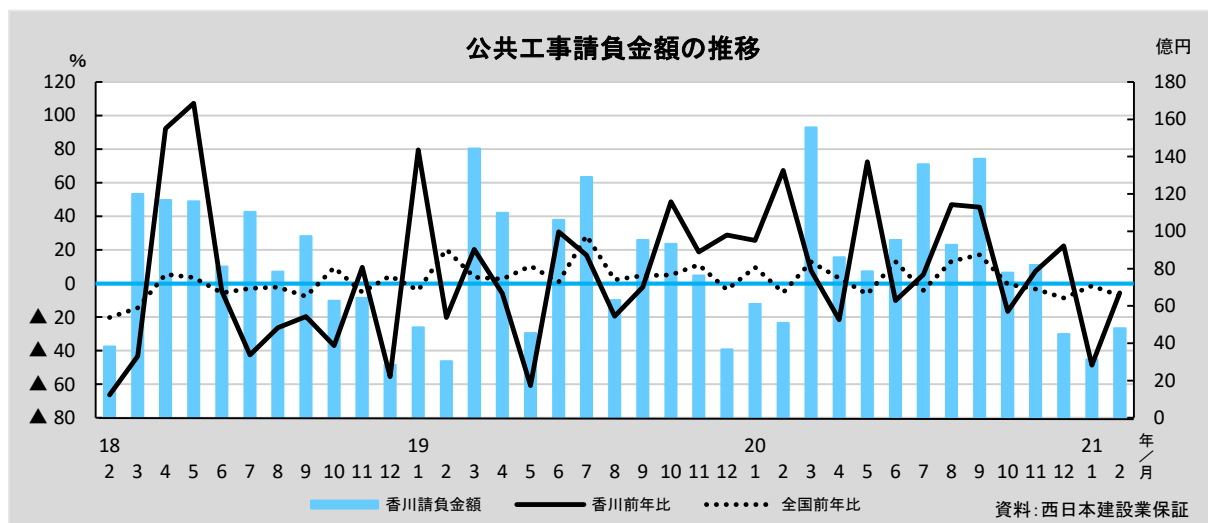
2月の新設住宅着工戸数は408戸で、前年同月比▲4.2%と、3カ月ぶりに減少した。利用関係別にみると、**持家**で前年同月比▲7.4%、**貸家**で同▲46.5%、**分譲住宅**で同+28.2%となった。

## 公共投資

高水準で推移している

### ●公共工事請負金額

2カ月連続減少



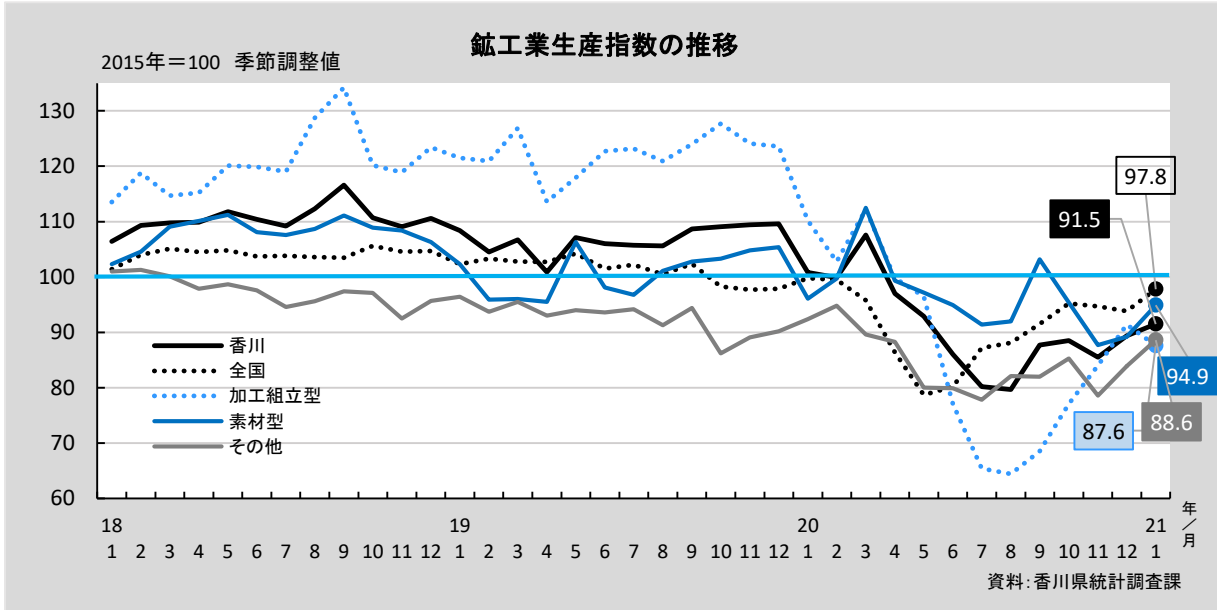
2月の公共工事請負金額は48.1億円で、前年同月比▲5.6%と2カ月連続で減少した。発注者別にみると、**国・独立行政法人等**で前年同月比+114.6%、**県**で同▲25.6%、**市町**で同+17.5%となった。2020.4月～2021.2月の年度累計では前年同期比5.1%増加している。

生産活動

持ち直しの動きがみられる

● 鉱工業生産指数

2 カ月連続上昇 ↑



1月の鉱工業生産指数（季節調整済指数）は91.5（前月89.4）となり、2カ月連続で上昇した。

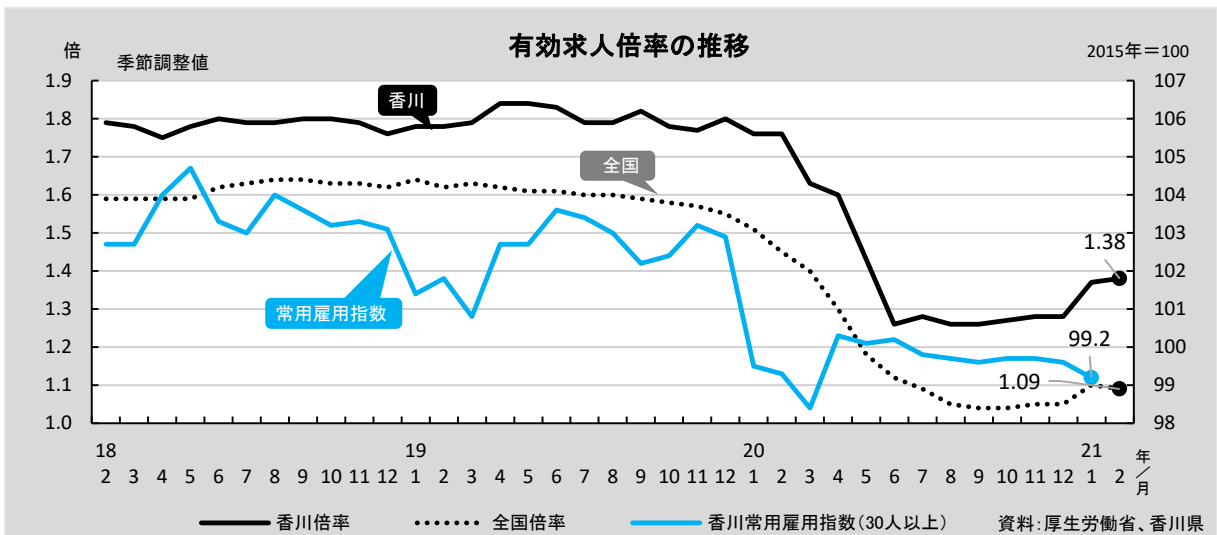
業種別では、素材型の非鉄金属工業（電気金）は前月比+29.1%、その他業種の食料品工業（食用油）は同+10.1%と上昇した。一方、素材型の化学・石油石炭製品工業（医薬品）は同▲17.2%と低下した。

雇用情勢

求人減により弱い動きとなっている

● 有効求人倍率

2 カ月連続増加 ↑



2月の有効求人倍率（季節調整値）は、1.38倍（全国3位）と前月より0.01ポイント上昇した。

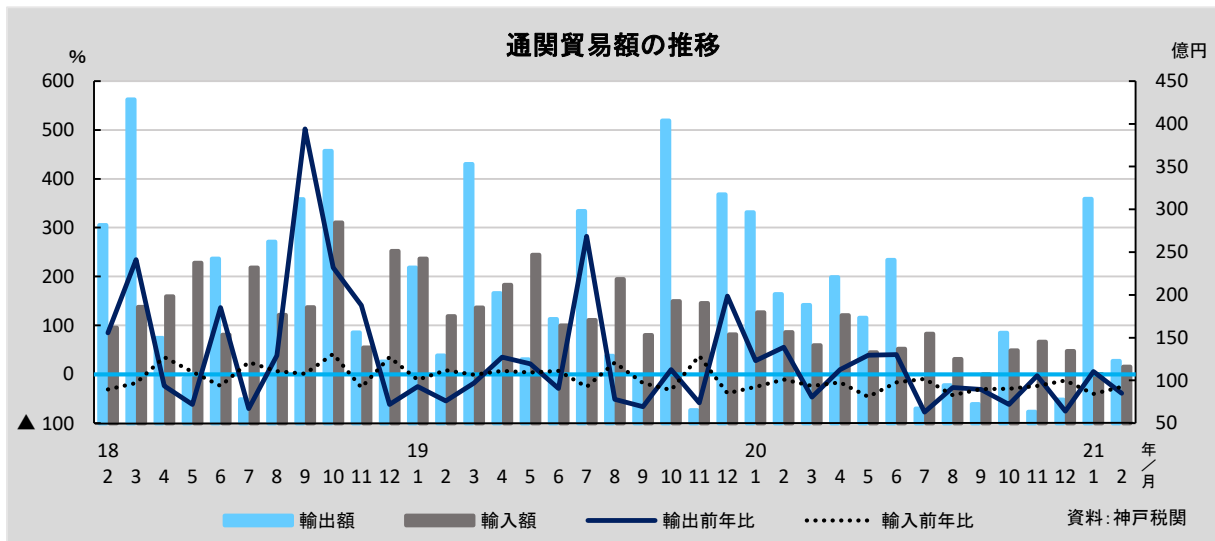
新規求人（原数値：前年同月比）は、運輸業・郵便業等が増加し、卸売業・小売業、宿泊業・飲食サービス業等で減少となり、全体で▲18.6%と14カ月連続で減少した。

1月の常用雇用指数（事業所規模30人以上）は、99.2となり、前年同月比は18カ月連続で低下した。

職業別常用有効求人倍率	倍
専門・技術的職業	2.28
事務的職業	0.62
販売の職業	2.00
サービスの職業	2.99
生産工程の職業	1.72
輸送・機械運転の職業	2.17
建設・採掘の職業	7.34
運搬・清掃・包装等の職業	0.92

## 貿易

輸出、輸入ともに弱い動きとなっている



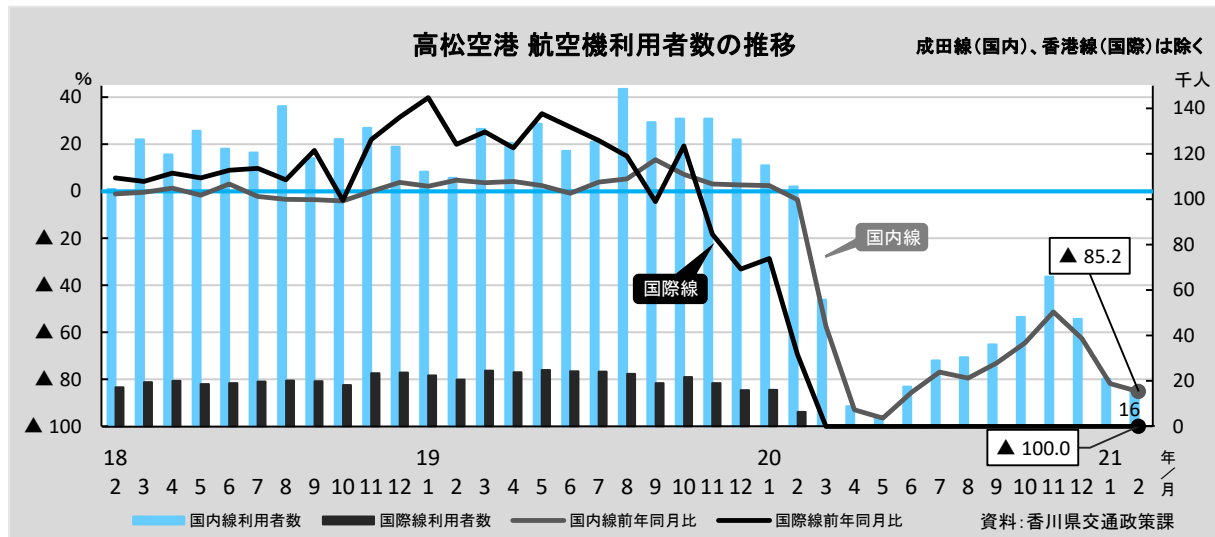
2月の輸出額は前年同月比▲38.9%の122.6億円、輸入額は同▲25.8%の116.1億円となり、差し引き6.5億円の出超となっている。

輸出額減の主因は、タンカー輸出額が前年同月比▲99.8%となったためである。輸入額減の主因は、前年28億円だった液化天然ガス輸入額が全減となったためである。

## 交通

国内線は13カ月連続減少、国際線は12カ月連続全面運休

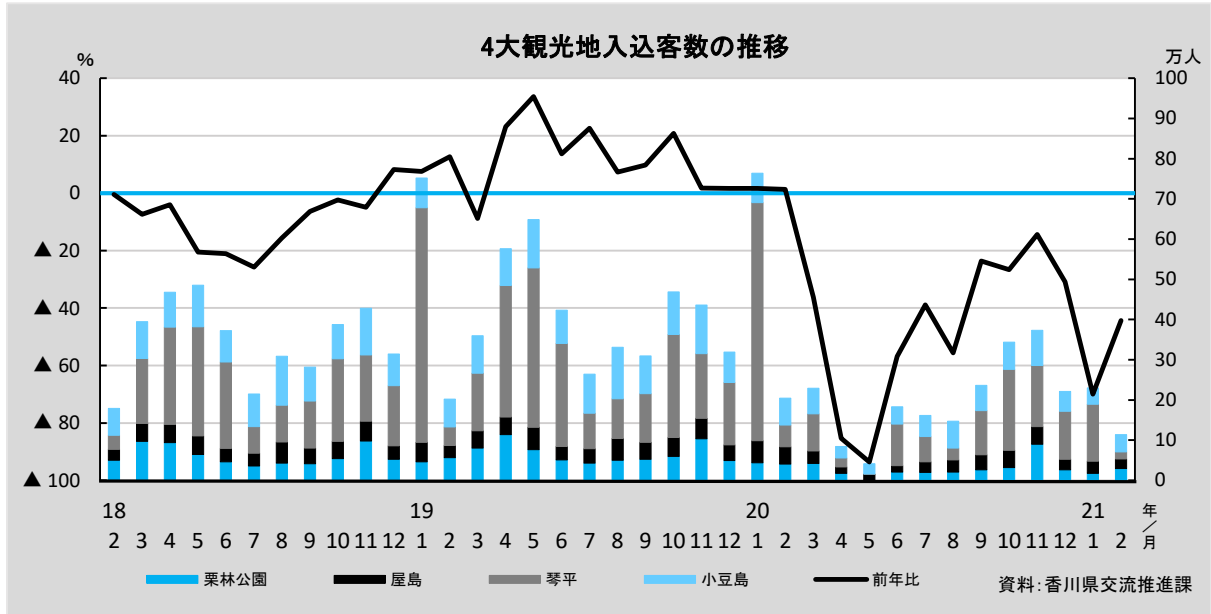
### ●高松空港旅客輸送実績



2月の航空機利用者数は、国内線(羽田線のみ)が15,675人(前年同月比▲85.2%)となり、13カ月連続で減少した。那覇線はコロナ禍に伴う需要減退の影響で全面運休となった。

国際線(ソウル・上海・台北線)は新型コロナウイルスの影響により12カ月連続の全面運休となった。

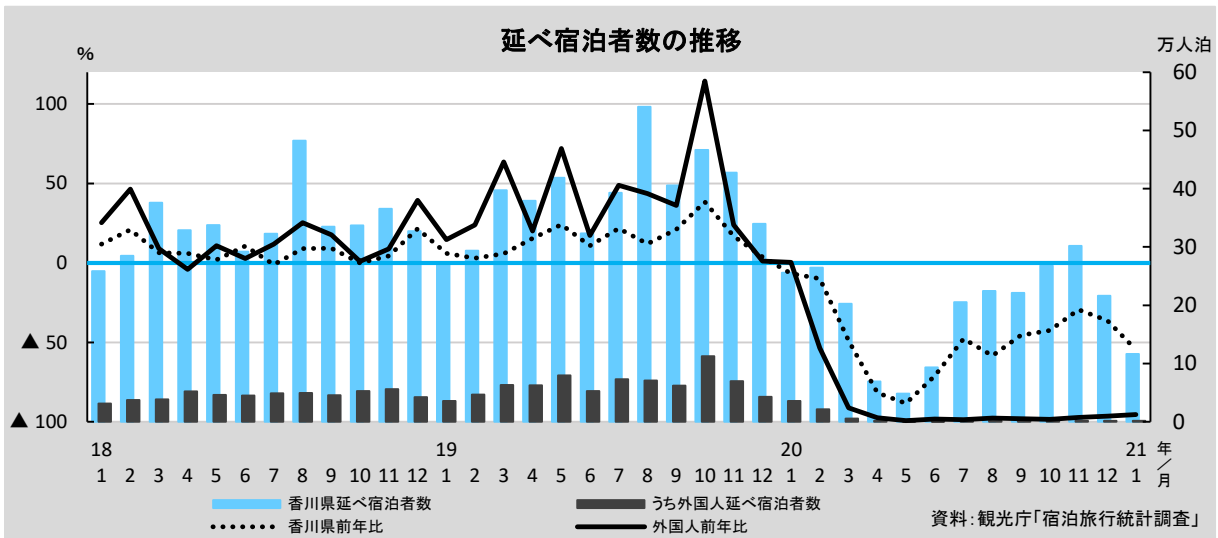
●主要観光地入込客数



観光地入込客数		栗林公園	屋島	琴平	小豆島	合計					
2月(人)	前年同月比	29,441	▲27.3%	23,558	▲45.0%	18,000	▲66.7%	42,854	▲36.2%	113,853	▲44.3%
1~2月累計(人)		47,369	▲43.9%	53,134	▲45.6%	160,000	▲75.2%	83,145	▲40.8%	343,648	▲64.5%

2月の主要観光地の入込客数は、前年同月比▲44.3%と12カ月連続で減少。コロナ感染再拡大による不要不急の移動自粛で、全ての観光地で弱い動きが続いている。1~2月の累計では前年比▲64.5%となった。

●延べ宿泊者数



1月の延べ宿泊者数は116,280人で、前年同月比▲54.5%と13カ月連続で減少した。うち、外国人延べ宿泊者数は1,620人となり、同▲95.5%と12カ月連続で減少した。